

第1回

小児リンパ管疾患シンポジウム

lymphatic disease

『リンパ管腫？リンパ管腫症？ゴーハム病？』

午前の部

2015年2月15日（日）

国立成育医療研究センター1F 講堂

主催：小児リンパ管疾患研究班

成育医療研究開発費（24-19）

難治性疾患実用化研究事業（H26-委託(難)-一般-070）

ごあいさつ

このたび第1回小児リンパ管疾患シンポジウムを開催する運びとなりました。主題は『リンパ管腫？リンパ管腫症？ゴーハム病？』です。本シンポジウムの目的は、リンパ管腫やリンパ管腫症・ゴーハム病などのリンパ管疾患の臨床ならびに研究に携わる医療者のみならず、リンパ管疾患の患者さんやご家族に、診断や治療に関して現時点で分かっていることをまとめてお伝えすることです。

リンパ管は血管と同様に人体において非常に重要です。昨今急速に様々なことが明らかになっているアクティブな分野です。しかし、このリンパ管自体の疾患については何も解明されていない状態です。リンパ管腫やリンパ管腫症を代表とする原発性のリンパ管疾患は多くが小児期に発生し難治性です。器官の発生・新生・修復の異常が病気の本態であると考えられていますが、分類、病態理解、治療開発ともに進んでいません。

このような状況を踏まえて、小児に多いリンパ管腫を中心として小児リンパ管疾患それぞれの病態を理解し、治療へ結びつけることを目的として、2012年に小児リンパ管疾患研究チームが発足しました。

シンポジウム午前の部では、3年間の研究の成果を統合し、今後のさらなる研究の発展、治療への応用について、主に研究者および医療者を対象として企画しました。

現在リンパ管疾患の研究、診療に携わっていらっしゃる皆さん、あるいは、これから携わろうとされている皆さんの、ひとりでも多くの方々のお役に立つシンポジウムとなりますことを祈念しております。どうか、よろしく願い申し上げます。

2015年2月15日

2015PLDS 事務局
野坂俊介

午前の部 ～プログラム～

司会：藤野明浩

≪10:00～≫

開会の挨拶

野坂 俊介

国立成育医療研究センター放射線診療部

1. 小児リンパ管疾患の実態

藤野 明浩

慶應義塾大学医学部小児外科

2. リンパ管腫

高橋 正貴

国立成育医療研究センター外科

3. リンパ管腫症・ゴーハム病

小関 道夫

岐阜大学医学部小児科

4. リンパ管疾患の画像所見について

野坂 俊介

国立成育医療研究センター放射線診療部

5. リンパ管疾患の病理

松岡 健太郎

国立成育医療研究センター病理診断部

6. リンパ管と遺伝子

青木 洋子

東北大学大学院医学系研究科遺伝病学分野

7. パネルディスカッション

全員

閉会の挨拶

黒田 達夫

慶應義塾大学医学部小児外科